



## 私のふるさと

坪井 都子

私の故郷(ふるさと)は「岡山」です。

岡山は本当に住みやすい所です。実家は岡山駅から西へ歩いて15分、交通も至便の位置。市の郊外にあたる場所、静かで生活も便利です。残念なのは1時間近く電車や車に乗らないと、豊かな大自然の場所に出会えないこと。

岡山は「晴れの国」と言われるように、雨が少なく温暖な瀬戸内気候の場所。だからイグサの産地としても有名で、マスカットや桃も名産品です。いい土が取れるので、備前焼も自慢の焼き物です。そこには岡山藩主・池田光政によって創設された庶民教育のための学校「旧閑谷学校」もあります。

北は中国山地、南は瀬戸内海に面し、自然災害とも無縁の地だと思っていました。2年前、倉敷の真備地区一帯の大洪水は驚きそのものでした。今も災害復興は半ばです。



↑備前焼

私は歴史話が好きなので、岡山の古(いにしえ)を中心に目を向けたいと思います。

旧石器時代(約2.5万年前)から人々は居住していたことが、鷲羽山遺跡等から伺えます。古代には「吉備国」と言われ、畿内地域・北九州地域・出雲地域と共に、日本列島の中心地の一つとして栄えました。優れた鉄製技術を持ち、その支配地域は強大で広範囲だったと推定されます。6世紀前半には大和朝廷に臣従します。

近世には宇喜多家から小早川家、そして池田家が藩政を担いました。池田光政は三代目です。明治4年「廃藩置県」により、備前・備中・美作(みまさか)の範囲が岡山県となりました。

### 《おかやま桃太郎伝説》から

私たちがよく知っている昔話の「桃太郎」の話の原型になったと言われる「桃太郎伝説」には、全く違う桃太郎と鬼の姿が描かれています。

伝説に隠された桃太郎と鬼の本当の関係とは? 「いにしえに吉備と呼ばれた岡山。この地には『鬼ノ城(きのじょう)』と呼ばれる古代山城や巨石等の遺跡が現存する。

↓鬼ノ城

絶壁にそびえる古代山城は鬼とされた『温羅(うら)』の居城である。激戦(桃太郎の鬼退治)の末、勝利した大和の皇子・イサセリヒコ(桃太郎)は巨大神殿に祀られ、敗れた温羅の首はその側に埋められている。」



(岡山市産業観光局推進課資料から)

“実は「温羅」は百済の国の王子だったが、隣国との戦いに敗れ、供の者たちとこの国に逃れてきて、船で吉備の穴海(今の見島湾)に流れ着いた。しかし漁師たちから鬼と間違われ暴力を振るわれ、仕方なく山に逃げ込んで新山の頂に住まいを構えた。新山の麓に阿曾の里という小さな村がある。熊に襲われそうになった村の少年・阿曾男を温羅が助けた。少年は土産に里の食べ物をもって温羅に会いに行くと、温羅はお返しに自分の作った鉄製の鍬(くわ)や鋤(すき)、鋤(もり)などの農具や漁具を持たせた。初め嫌がっていた村人も使ってみて、性能の良さに喜んだ。温羅は阿曾男の姉・阿曾媛と結婚するまでになった。

数年後、阿曾男からこの話を聞いた桃太郎は「鬼退治」をした自分を激しく責めた。夢枕に立つ温羅と約束した。温羅は竈(かまど)で世の吉凶を知らせることを、桃太郎は吉備津彦と名乗り吉備の人々のために尽くすことを。”

鬼退治伝説は「古代吉備の繁栄と屈服の歴史」を背景とし、桃太郎伝説の原型になりました。吉備の多様な遺産は今も訪れる人々を神秘的な物語へと誘ってくれます。故郷の豊かな歴史に触れ、また故郷の味わいを実感しています。